



〈おち ふみお〉北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)日本の灯りを護る会代表、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、自然冷媒開発研究機構理事、日本省エネルギー推進連合会長を務める。札幌なかがで経済人ネットワーク主宰。

危機管理コンサルタント
越智文雄の時論・持論・自論

備蓄の取り崩 未曾の危機に直面 日本省エネルギー

(株)あかりみらい社長

越智 文雄氏

な景気マインド優先の政治的瞞着を続けていますが、他の国はとくに非常事態として省エネルギー、節電を始めています。先週ホルムズ海峡を脱出した出光丸が日本に帰ってきましたが、日本の1日の原油消費量340万バレルに対して出光丸が運んできたのは200万バレルに過ぎません。2日で3隻のタンカーが必要なのに3ヶ月間で1隻だけが帰ってきているのです。

菅井 封鎖が解けるまでは備蓄を取り崩していくしかないのですね。越智 メディアは原油不足をナフサなど資材不足と物価値上げりの面だけを取り上げているようですが、政府の節電要請がなくてもこの省エネ対策を自主的に進めていくことが重要です。第一次オイルショック後には、日本は原子力発電とLNG発電によるエネルギーの多様化と、太陽光や風力の再生エネルギー拡大をエネルギー基本計画に盛り込みましたが、何よりもあのショックから回復できたのは、家電や車や鉄鋼などの徹底的

な省エネ技術の開発と国民の節電活動でした。

■自然冷媒ガス導入で電気使用量は減る

菅井 確かにまだ省エネルギーや節電の視点での取り組みが目立っていません。省エネでエネルギー危機は回避できるのですか？

越智 実は、最初にお話しした中国のレアメタル戦略の一環で追われている照明の2027年問題は、原発が再稼働するまでの電力不足を補う大きな省エネ活動になります。日本に7億灯残っていると言われている蛍光灯を全てLED化できたならば、発電所30基分の電力量を削減することになります。さらにここ数年の世界の動きで、冷凍・冷蔵庫等に使われているフロンガスを自然冷媒ガスに替えることで、地球温暖化の原因になる物質を無くすと同時に電気使用量も減ることがわかっています。これが空調分野で広がれば照明の数倍のボリュームでの省エネルギー

連載 50回記念特別対談

しでは解決せず して設立した ギー推進連合

気象予報士・防災士

菅井 貴子さん



〈すがい たかこ〉フリーキャスター・気象予報士・防災士・CFP(上級ファイナンシャル・プランナー)・健康気象アドバイザー・科学技術エコリーダー。横浜市出身。明治大学理工学部数学科卒業、北海道大学大学院教育学院修士課程修了。現在は北海道文化放送(UHB)「みんなのテレビ」にて気象キャスターとして出演中。講演や執筆でも活躍。

自治体向けLEDの導入や防災・停電対策、感染症のウィルス対策など社会課題に正面から取り組み、全国を東奔西走する危機管理コンサルタントの越智文雄あかりみらい社長。本誌連載「時論・持論・自論」が50回目を迎え、その節目を記念して気象予報士で防災士の菅井貴子さんが、エネルギー問題をはじめとする国際・国内情勢や今後の展望を聞いた。

■節電要請なくても自主的に省エネ対策を

菅井 連載50回目おめでとうございます。いつも独特の視点で私たちの知らない情報を提供していただき、毎号楽しみにしています。エネルギー問題や防災、感染対策、地域経済、政治の課題など全国視野で北海道への提言を直言されていますね。特に、このところの国際情勢については、早くからエネルギー面で警鐘を鳴らしています。越智 私の本業の「日本の灯りを護る」という点では、3年前のス

イスで締結された水銀水俣条約による蛍光管の製造禁止が、中国のレアメタル戦略ではないかと当時の高市早苗経済安全保障大臣にも直訴していました。それが昨年の高市総理ご自身の発言で中国からのレアメタル規制が始まってしましました。そこにトランプ大統領のイラン攻撃によるホルムズ海峡封鎖と原油不足が重なったのですから、日本のLED資材調達は大変厳しい状況になっています。

菅井 越智さんは電気事業連合会にもいらつしゃって、エネルギー問題の専門家でもあります。

越智 本誌でも書きましたが、1973年の第一次オイルショックのことを体験した現役の政治家も官僚も経営者もメディアもいなくなっています。若い人には、「オイルショックとは、東日本大震災とリーマンショックとコロナパンデミックが1度に来た位のショックなのだ」と伝えていますが実感がないようです。

現在の政府は、まるでエネルギー危機が存在していないかのよう

設立20周年記念「札幌なにかができる経済人ネットワーク」 第193回 特別例会講演会

行政(道・自治体・経産局・開発局・環境省・運輸局)、大学、シンクタンク、金融機関、メディア、そして芸術家や建築家、中小企業経営者など、官民の垣根を越えた多様なメンバーが集い、地域の活性化を目指して活動が続けてきた「札幌なにかができる経済人ネットワーク(SNN)」。

設立20周年を迎えた今、私たちが向き合うべきは、急速に変化する国際社会の潮流です。そこで今回の193回特別例会では、「ヒゲの隊長」として知られ、外交・安全保障に極めて造詣が深い前参議院議員・佐藤正久氏をお迎えします。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】2026年6月26日(金) 13:00~16:00(12:30開場)

【会場】カナモトホール(札幌市民ホール) 2階 第1、2会議室
札幌市中央区北1条西1丁目

【特別講師】佐藤正久氏(前参議院議員、ヒゲの隊長)

【演題】「米イ停戦合意の行方と日本の進路(仮称)」

【会費】1,500円(会場費、お茶代として)

【申し込み先】akari@akarimirai.com(メール)に
氏名・所属・電話番号をお知らせください。

定員
150名



前参議院議員 佐藤正久(さとう・まさひさ) プロフィール

“ヒゲの隊長”こと、前参議院議員 佐藤正久(さとう・まさひさ)。福島県出身。防衛大学校卒業後、約25年間、陸上自衛官として勤務。国連PKOコソボ高原派遣輸送隊初代隊長、イラク先遣隊長・復興業務支援隊初代隊長、第7普通科連隊長兼て福知山駐屯地司令などを務めた。平成19年、参議院議員に初当選、3期務める。外務副大臣、防衛大臣政務官のほか、参議院外交防衛委員長・自民党幹事長代理、国防部会長・外交部会長・国防議員連盟事務局長などを歴任。

【お問い合わせ先】札幌なにかができる経済人ネットワーク事務局 メール:akari@akarimirai.com フリーダイヤル:0120-777-048

避難所の停電対策に 停電・感染対策資材の寄贈について

(株)あかりみらいでは、防災危機管理アドバイザーとして、停電対策、感染対策の情報発信をしてきましたが、このたび全国自治体の防災対策への社会貢献として避難所で活用していただくことを目的に以下の製品を寄贈いたします。

- 停電対策用安心給電キット(電流制限機能付き) 24台
- 感染防止対策用次亜塩素酸水溶液パウダー(100ppm約150ℓ相当) 12箱
- 感染防止対策用超音波霧化器 6台

災害時の広域停電には、ハイブリッドカーの1500Wコンセントからの給電が有効ですが、医療機器の利用者には電圧維持が必要です。電気毛布60枚分の供給力があり、体育館の機能を維持できます。避難所には電流制限装置付きテーブルタップをご用意ください。

また、避難所での新型インフルエンザ等の感染拡大対策として、次亜塩素酸水を加湿器で空間噴霧・除菌することが有効です。この方法は厚労省も認めており、高市早苗総理も片山さつき大臣も議員会館事務所で活用しています。

受け入れ可能な自治体のご担当者様は遠慮なくご連絡ください。避難所が多数ある場合もご相談に応じます。



安心給電キット



専用超音波霧化器



次亜塩素酸水溶液パウダー

株式会社あかりみらい
akarimirai

お問い合わせはこちら
0120-760-814
フリーダイヤル受付(平日9時~17時30分)

詳しくはホームページをご覧ください
あかりみらい 防災 検索

ーが実行できます。
菅井 そんな画期的な技術があるのですか。
越智 既に全国の多くのホテルや大型スーパー、食品工場、データセンター、道の駅、大学等でも使われています。北海道の大型店舗でも、およそ4割の空調の電気使用量が削減されることが実証されました。日本中の空調が4割節電されればエネルギー危機対策にも大きく貢献します。空調メーカーも新型機器として技術開発していくのようですが、今すぐできる方法としては、室外機から冷媒ガスを入れ替えるだけでその時点から電気代も4割節約できます。
菅井 新しい団体を立ち上げたとき聞きました。
越智 結局、今のままで備蓄を取り崩すままでいると、アリとキリギリスのように190日後には北海道民は凍死してしまうことになります。私たちにできる事は、現実的な効果的な省エネ活動です。LEDが照明の75%を省エネする事は知られています。今空調の40

%を省エネする冷媒ガス交換を導入すれば、エネルギー危機も電気料金対策も熱中症対策も解決できるのですから、これらを政府の緊急対策として取り上げてもらうよう「日本省エネルギー推進連合」を設立し、議員連盟の立ち上げも呼びかけています。
■ブラックアウトの教訓
給電の専用コードを開発
菅井 防災分野でも活躍されていますね。
越智 胆振東部大地震の北海道ブラックアウトから、停電対策に車を使うことを提言し続けています。あの時セイコーマートさんが車のシガーライターから店舗レジ周りの電気を取るマニュアルを持っていたことが多くの人を救いました。これをヒントに、避難所用にコンセント付きハイブリッドカーから給電する専用コードを開発し、全国自治体に寄贈しています。また、コロナ禍で活躍した感染拡大対策として、次亜塩素酸水の空間除菌は大勢の人が集まる避難所の感染

対策としてもマニュアル化してくべきものです。
菅井 私も気象予報士として大規模な自然災害を警告する立場から、防災士として具体的な避難所の対策を進めていくべきだと思います。先月も参加させていただきましたが、「札幌なにかができる経済人ネットワーク」も20年目になりました。6年目になった北海道マラソンのひまわり応援や、今年9月の北海道大学同窓会有志が主催するジンギスカンパーティーなど楽しいことをたくさん企画して実行する行動力に期待しています。
▲過去49回の連載はこちらからご覧になれます。



▲北海道マラソンのひまわり応援を今年も行う(写真は2025年)

北大同窓会有志

**北大150周年記念
ジンギスカンパーティー**

食べ飲み
放題

主 催 北大150年を言祝ぐジンパ実行委員会
(代表 越智文雄 1980法卒 / 顧問 横山 清 1960水卒)
連絡先 実行委員会事務局(株式会社あかりみらい内)
電話:011-792-6878 メール:akari@akarimirai.com

日時 2026年9月27日(日)
13:30~15:30(13時開場)

会場 サッポロビール園ポプラ館
札幌市東区北7条東9丁目2-10

会費 一般8,000円・大学生6,000円

定員 650名限定(振込確認先着順)

お申込み先 【メール】akari@akarimirai.com
※氏名・卒業年・学部・所属・電話番号をご入力ください。

お申込みいただきました皆様には振込先をご連絡します。